

新斎場建設推進に向けて③

新斎場建設の必要性

～将来のメモリアル施設の在り方を考える～

問 メモリアル施設及び
環境整備推進室 (☎内線 136)

市では、老朽化する火葬場に対応するため、新斎場の建設候補地選定に取り組んでいます。最新の火葬施設は、市民サービスがより向上されるように、設備も建物構造も進化しています。どこに、どのような機能を持ったメモリアル施設を建設していくかを、市民の皆さんのご意見をいただきながら進めていきます。

多治見市火葬施設の紹介

- 美術館のような外観で、煙突が見えなく、煙や臭いがほぼありません。
- 省エネ、省CO₂に配慮し、エネルギーコストの低減が図られ、地球環境に優しい施設です。
- 進入路や駐車場が広く利便性に優れています。
- 待合室が個々に使用できることで、葬儀場などへ一度戻る必要がありません。
- 室内が広く、ご遺族や参列者に親切な施設です。
- トイレの数も多く、バリアフリー化され、高齢者にも優しい施設です。



- 1炉1室によって、プライベート空間が保たれています。
- お別れからお骨上げまでの一連の儀式において、ご遺族のお気持ちを大切にできる空間が確保されています。
- ゆっくりと待合時間を過ごすことができる空間が設置されています。
- 同時刻に複数の火葬ができます。
- 火葬炉がコンピュータで管理されています。約1時間～1時間半で火葬が執り行われています。
- ダイオキシン類の排出抑制や、ばい煙の除去が十分行われています。

次回予告 (7月号)

- 先進施設視察会「第2弾」募集
- 新斎場建設に関するアンケートのお願い

最新情報や
ご意見は
こちら

